

取組3 地域社会(福祉・労働等)との連携・協働

目的

教育・労働・福祉等の関係機関が連携・協働した取組をととして、地域社会のニーズを把握し、地域資源を活用・開発することで、本校のカリキュラムマネジメントに生かすとともに、地域への情報発信を行う。

方法

- ①附特就職支援ネットワーク会議における意見交換やアンケート実施を通して、地域社会のニーズを把握し、本校教育に生かす。
- ②就職支援ネットワーク委員と連携・協働した取組の実施する。
- ③卒業後のフォローアップミーティングの結果を整理し、教育課程に反映する。
- ④地域資源の活用・開発を行う。

今年度(3力年の1年次)、中心に取り組んだ②と③を中心にご紹介します！

「附特就職支援ネットワーク会議」について ～就労支援ネットワーク構築の取組～

1 目的

本校がモデルとなり、教育・労働・福祉等の関係機関が連携・協働した取組を実施することで、本校及び地域のキャリア教育や就労支援体制を充実させるとともに、地域のセンター的機能を発揮することを目的とする。

2 取組内容

- (1) 本校の社会に開かれた教育課程実現に向けたカリキュラム・マネジメントへの評価及び助言
- (2) 本校及び地域のキャリア教育及び就労支援に関する支援ツールの開発や研修会の開催
- (3) 地域の小・中・高等学校への進路・就労支援に関するケース検討
- (4) 教育・労働・福祉等のニーズや実情に関する情報交換及び連携・協働した取組の実施

3 開催数

年3回(6月, 11月, 2月)

平成29年度就職支援ネットワーク委員(8名)

- ・くまもと障がい者ワーク・ライフサポートセンター縁(主任支援ワーカー)
- ・アス・トライ 就労移行支援事業所(代表)
- ・熊本県中小企業家同友会(副代表理事)
- ・チャレンジめいとくの里ゆめくらしワークス事業部(サービス管理責任者)
- ・社会福祉法人ライン工房(総括施設長)
- ・熊本市障がい者相談支援センターじょうなん(センター長)
- ・熊本障害者職業センター(主任障害者職業力ウンセラー)
- ・社会福祉法人三気の会相談支援事業所たんぼぼ(熊本時習館特別支援相談員)



②就職支援ネットワーク委員と連携・協働した取組の実施する

支援ツールの開発

「くまもと5000プロジェクト」における学校プラグの開設

これまで就労に関わる有志で結成された「くまもと5000プロジェクト」では、障がいのある方が自分で自分の生き方を選ぶことができるように、様々な情報(求人情報, 相談支援事業所, グループホーム, 障がい福祉事業所等)をWEB上に掲載してきました。

今回, 新たに「学校プラグ」として, 熊本県内の特別支援学校の情報や, 障がいのある子どもたちの進路スケジュール, 高等部卒業後の就労の様子, 各種支援ツールを掲載予定です。

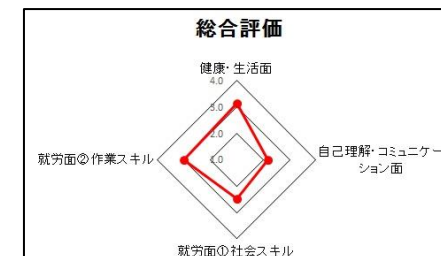


<http://www.kp5000.jp/plug/>

教育・労働・福祉が協働して、「必要なヒトに、必要な情報を」提供できるような新たな社会資源の開発(支援ツール等)も重要

「附特就労アセスメントシート(総合記録表・評価表)」の改善

「附特就労アセスメントシート」は、仕事が「できる」「できない」を見極めるためのものではなく、生徒の強みを見つけ職場での業務をマッチングさせたり、芽生えを学校で重点的に取り組んだり、障がいの特性による課題に対し配慮を要請したりするなど、客観的なデータに基づいて就労支援をするために活用しています。



アセスメント内容		アセスメント回数	初回	S	E	A	2回目	3回目	備考
就労面①社会スキル	巧緻性	39、手先が器用である	学校・実習	4	●			4	自分でできると、積極的に取り組む様子が見られた。支援の方法によっては時間を短縮することが出来ると思われる。
	正確性	40、正確に丁寧に作業をすることができる	学校・実習	4	●			4	
	効率性	41、慣れると作業スピードが上がる	学校・実習	3		●		3	
		42、時間を見て行動することができる	学校・実習	2			●	3	
	気力	43、工夫しながら作業ができる	学校・実習	2				2	
		44、1日に6時間以上作業継続する気力がある	学校・実習	4	●			4	
就労面②作業スキル	作業力	45、1日に6時間以上作業を継続する体力がある	学校・実習	4	●			4	

本人のアセスメントと職場のアセスメントをもとに、ジョブマッチングを図ることが、その後の定着支援に大きく影響する。

研修会等の開催

「卒業後の働く生活を描くセミナー2017」の開催

障がいのある方の「働く」「暮らす」の支援を行う**3つの社会福祉法人と本校が協働し**、卒業後の「働く生活」の実際について知っていただき、子どもたちの将来がより具体的にイメージできるようになることを目的として、セミナーを開催しました。

対象は、主に障がいのある児童生徒の保護者の方々、また**特別支援教育に関わる学校の先生方**として、約280名の方々に参加いただきました。

一般就労や福祉的就労など、卒業後の様々な「はたらき方」についての情報提供や質疑応答を通じた意見交換を行うことができました。

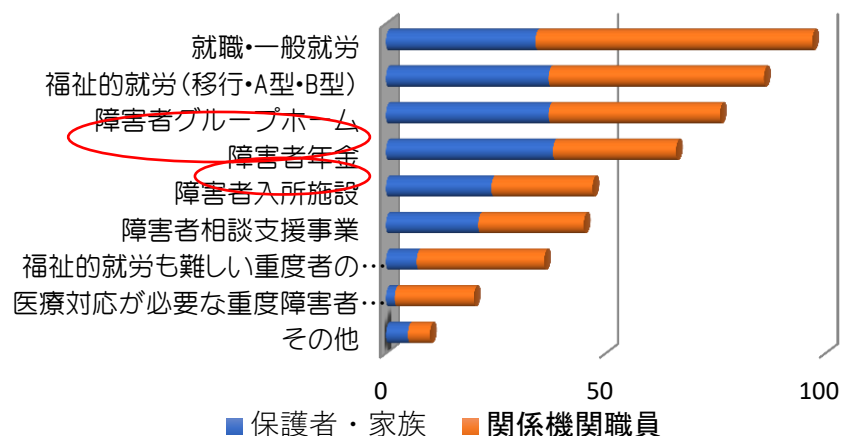
社会福祉法人明徳会の中田氏より（セミナー実行委員長）

県内特別支援学校生徒のご家族や教員の方に多数ご参加いただきました。今回のセミナーでは、在学中には見えづらい支援学校卒業後の働く生活について、鈴木様には社会で働くために大切なことについてご講演をいただきました。また、福祉サービス事業所からは、就労系事業を利用して本人らしく自立した社会生活を実現している方の事例の発表があり、将来の生活のイメージづくりの機会になりました。今後も教育・福祉・労働が連携して将来を描ける研修会を企画していきます。

〈午前〉
講演「将来、障がいのある子どもたちが働く・働き続けるために大切なこと」
特定非営利活動法人くらしえん・しごとえん
代表理事 鈴木 修氏

〈午後〉
①就労系福祉サービスの特徴と現状
②「就労移行支援」
③「就労継続支援A型」
④「就労継続支援B型」
※福祉事業所より事例紹介

今後取り上げてほしい内容（アンケートより）



障がいのある方の様々な働き方に関することとともに、**暮らしに関すること（グループホーム等の住まいや障害基礎年金等）**についても知りたい保護者や先生方が多い。



地域支援

地域の高等学校等への就労・生活支援

就労相談窓口「就労サポートすずかけ」を開設し、校内外の相談窓口を明確にするとともに、校内のキャリア教育・就労支援や卒業後のフォローアップ体制の充実に取り組んでいます。

また、そのノウハウを地域の小中高等学校等への進路・就労支援へ活用し、センター的機能を発揮しています。

高等学校への支援例

- 就労相談や本人のアセスメント
- インターンシップ先の案内
- インターンシップの進め方(事前の情報交換やケース会の実施)
- インターンシップにおける巡回支援のサポート
- 障がい福祉サービスや支援機関の情報提供

平成29年度は、**高3の2名と、高2の2名の就労支援を実施**

課題

- 一般高等学校におけるキャリア教育の充実が必要
→本校のノウハウを活用したキャリア発達促す授業作りの情報交換
- 一般高等学校生徒の就労レディネスの不足
→職業センターの職業準備支援や本学「愛work」での職業実習の実施
卒業後の障がい福祉サービス「就労移行支援」の利用

「すずかけイブニングセミナー」の開催

発達障がいのある生徒の進学・就労等に関するシリーズ研修（高等学校や大学における支援、当事者会、若サポ、企業からの講演等）」として、年5回開催しています。小中高等学校、特別支援学校の教職員・保護者、福祉事業所・企業の職員等、のべ700人（平均60名）の方に御参加いただき、様々な職種や校種で情報交換を行うことができました。

回	テーマ	講師
1	高等学校における特別支援教育の体制・支援	熊本中央高等学校 特別支援教育コーディネーター 織田紗智子氏
2	大学内における特別支援の連携・支援	熊本大学学生支援室 特任助教(臨床心理士) 井上寛子氏 キャンパスソーシャルワーカー 渡邊和紀氏
3	大人になった当事者と対話して、教育・支援のあり方を見直してみよう ～発達障がい者当事者会からの発信～	障害者相談支援事業所 発達協働センターよりみちセンター長 精神保健福祉士 山田裕一氏 発達障害者当事者会リルビットスタッフ
4	さまざまなニーズに応じた若者の就労支援	くまもと若者サポートステーション 統括コーディネーター 宮口 雅子氏
5	企業における様々な連携・支援～雇用する立場から～	株式会社総合プラント 人材開発事業部 部長 森下勝也氏 人材開発事業部 課長 藤本由香氏



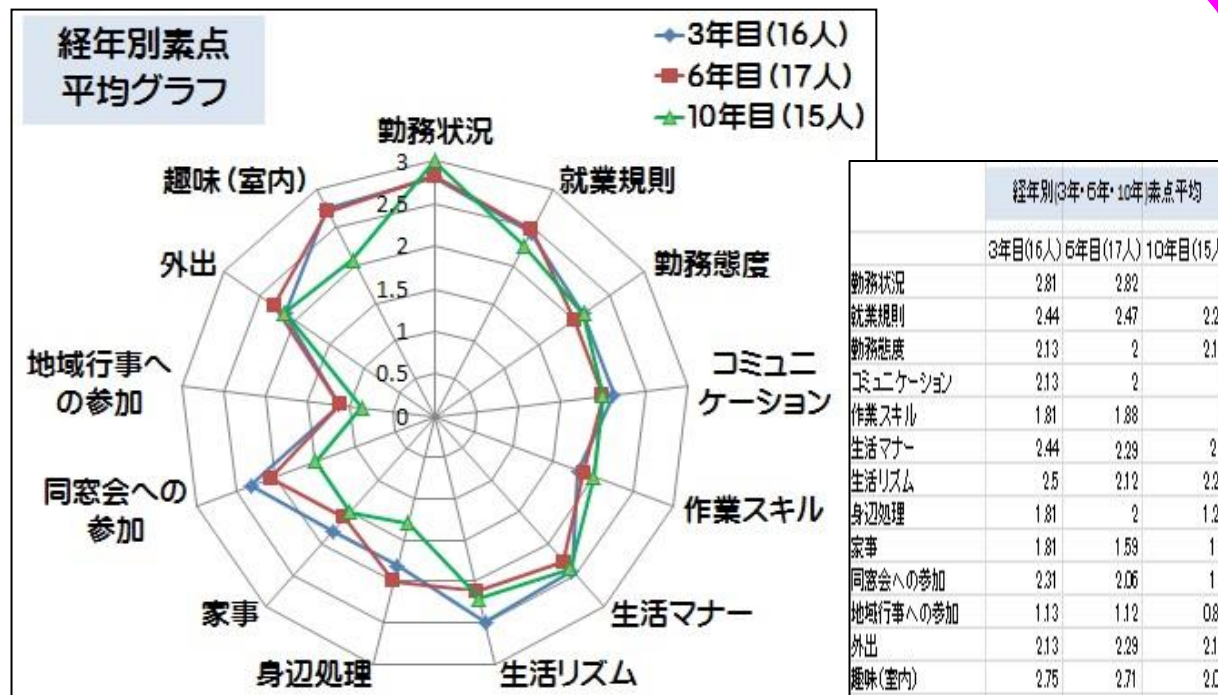
セミナーで聞きたい内容（アンケートより）

- 就労サポートについて詳しく知りたいです（進路開拓等）【特別支援学校高等部】
- 学校の先生方の話や、卒業後のサポート体制等こういった事が必要で課題なのか聞きたいです（相談支援事業所・専門員）
- 就労支援の内容（コミュニケーションスキルをどのように教えていくか）等についても学びたいです（小・特別支援学級）
- 知的障がい者の結婚の実情について知りたいです。相談・支援をしている所があるのでしょうか（小・特別支援学級）
- 生徒の保護者が障がいの受容で苦労しているので、その解決に向けて学びたいです（高・コーディネーター）

特別支援学校の授業内容や方法、進路・就労支援のノウハウに関する情報発信が必要

③卒業後のフォローアップミーティングの結果を整理し、教育課程に反映する

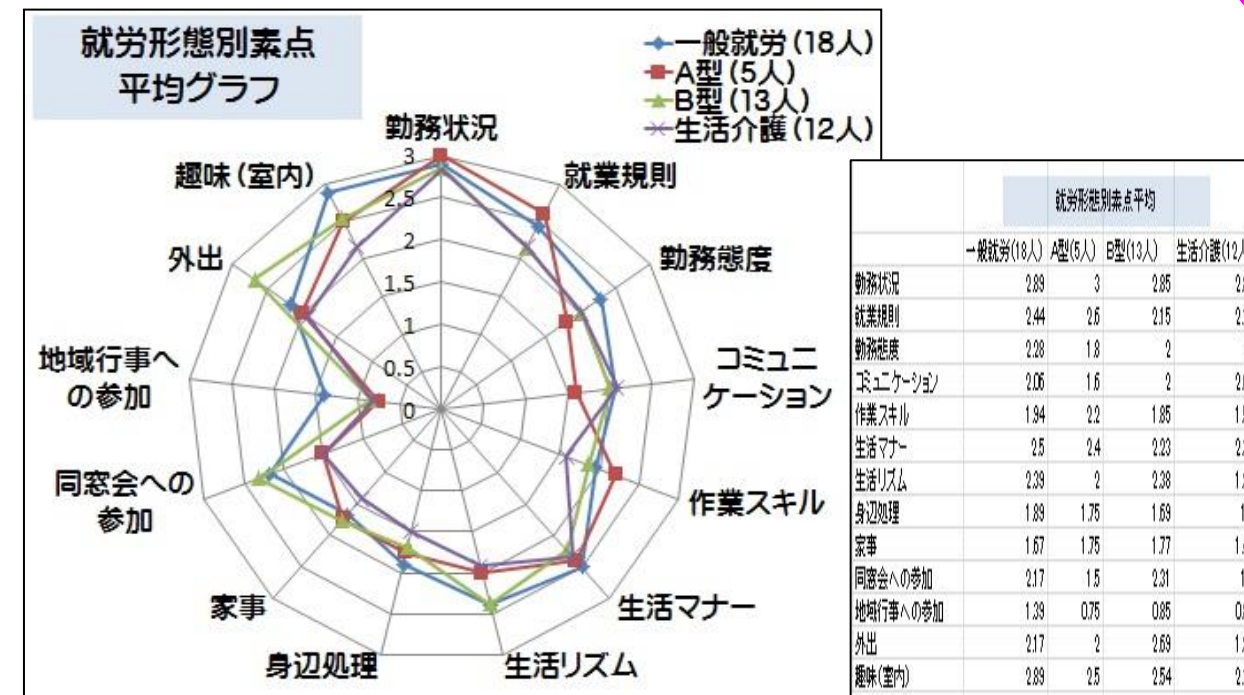
フォローアップミーティング（3年目、6年目、10年目）の結果【本校卒業生2年分】



【経年別】の結果より

- 【3年目】勤務状況は良好。職場・事業所の要求水準が上がり、**作業のスキルアップ**向上が必要。また、**身辺処理・家事**は課題あり。
- 【6年目】マンネリ化による**仕事面や生活面のステップアップ**が課題。
- 【10年目】同窓会への参加が減少。**支援ネットワーク**ができている場合は安定。

フォローアップミーティング（一般就労、福祉的就労（A型）福祉的就労（B型）、生活介護）の結果【本校卒業生2年分】



【就労形態別】の結果より

- 【一般就労】**地域行事への参加**が他より高い（特学経験？）。**外より室内での趣味あり**。
- 【福祉的就労（A型）】作業スキルは一般就労より向上。**コミュニケーションの課題**あり。
- 【福祉的就労（B型）】**外出**が他よりも高い（職場での活動や保護者サポート？）。
- 【生活介護等】**外出や趣味（室内）の充実**が必要。

フォローアップミーティングの結果より ～卒業後の生活より、学習内容や方法の見直しへ～

外出（習い事、買い物、旅行、映画・カラオケ）
これまでどおり「余暇に関する学習や内容」の充実が必要（**生涯学習の観点**を踏まえて）。

地域行事への参加（居住区の行事への参加）
本校周辺の地域に関する学習とともに、**自分の居住区の地域に関する学習**も必要。

身辺処理（持ち物管理、片付け、整理整頓）
「**日常生活の指導**」等、知的障がい教育が大切にしてきた**学習の評価及び家庭との連携・協働**。

家事（炊事、洗濯、簡単な家の手伝い等）
卒業10年後を見据えた「**暮らし**」に関する**学習の充実**。**家庭との連携・協働**。

次年度への指向

①附特就職支援ネットワーク会議における意見交換やアンケート実施を通して、地域社会のニーズを把握し、本校教育に生かす。

- 「資質能力に関するアンケート（仮）」の実施と整理。

③卒業後のフォローアップミーティングの結果を整理し、教育課程に反映する。

- フォローアップミーティングにおいて、卒業生の卒業後の生活に関する情報を整理と具体的な取組の実施。

②就職支援ネットワーク委員と連携・協働した取組の実施する。

- 「学校プラグ」の活用と地域の小中高等学校等への情報発信。
- 地域社会のニーズをもとにしたセミナーの開催と高等学校等への就労支援。

④地域資源の活用・開発を行う。

- 地域資源のさらなる活用による子どもたちの主体的・対話的で深い学びの実現に繋がる授業実践の蓄積。
- 本校の取組を地域へ発信し、地域資源の新たな開発。